

真岡鉄道の歴史的評価と地域づくりへの活用

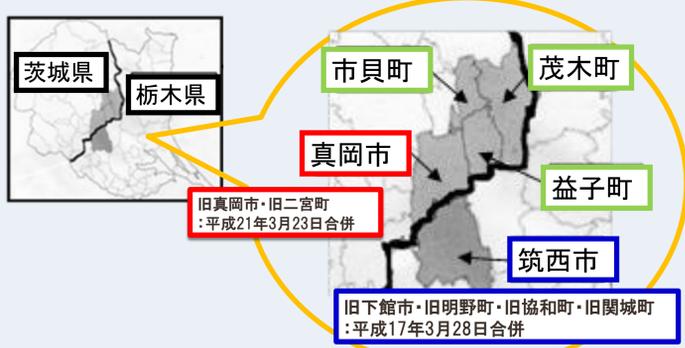
足利工業大学 工学部 都市環境工学科
福島研究室(土木史研究室)
白田 恵

1 はじめに

現在、わが国の地方都市では、人口の減少や経済の停滞などの問題があり、今回対象とする真岡鉄道沿線地域においても同様のことがいえる。地域活性化の一つの方向として、地域の価値を高め、交流人口を増やし地域に賑わいをもたらす工夫が各地で行なわれている。本研究では、真岡鉄道を基軸に、真岡鉄道が地域に果たしてきた役割を踏まえながら、真岡鉄道に関連する歴史的建造物の評価を行ない、地域づくりに向けた活用についての検討と考察を行なうことを目的とする。

2 真岡鉄道沿線地域

真岡鉄道の沿線地域：茨城県の西部に位置する筑西市と栃木県の東南端に位置する真岡市、益子町、市貝町、茂木町の2市3町を結ぶ



3 真岡鉄道の開業と地域への役割

役割: 栃木県東南部地域の産業の興隆と沿線地域の結びつきの強化を目的

変遷 明治45年: 真館線として下館～真岡間を軽便鉄道として開業
大正9年: 栃木県茂木町までの全線が開通
昭和2年には国有鉄道
昭和62年に第3セクターに移行

年月日	できごと	備考
明治45年4月	下館～真岡間 真館線(まだてせん)として開業	
大正2年7月	真岡～七井間 開業	真岡線となる
大正9年12月	七井～茂木間 開業	真岡線全線開通
昭和2年12月	国有鉄道となる	
昭和29年2月	真岡線全面機動車化	
昭和35年4月	国鉄関東支社評議会において真岡線廃止が決定	
昭和43年9月	国鉄諮問委員会で真岡線廃止答申される	
昭和45年3月	動力近代化に伴い、真岡線SL全面廃止	
昭和57年11月	真岡線特定地方交通線第二次承認申請	
昭和62年1月	第3セクター転換決定	
昭和63年4月	真岡鉄道株式会社に譲渡	



5 真岡鉄道の鉄道施設

開業当初の歴史的建造物として現存しているのは詰所と橋梁である。橋梁はその後、塗装等の若干の補修は施されているが、開業当初の桁が現在も使用されている。

	駅舎	橋梁	函渠	開渠	暗渠	隧道	詰所	合計
真岡鉄道	17	47 (54桁)	7	3	3	1	2	80 (87)

開業当初の歴史的建造物

橋梁(西ノ川橋梁)



詰所(真岡駅構内)



・橋桁種類別数

橋桁種類	形式	通達年月日	径間(メートル法によるものは支間)	橋架数	計
トラス	溶接ワーレン型			2	2
上路プレートガーダ	作30年式	明治30年11月17日(明治26年設計)	20ft, 30ft, 40ft, 50ft, 60ft, 70ft, 80ft	4	20
	旧日鉄型	明治40年以前		2	
	達第680号	明治42年8月3日	20ft, 30ft, 40ft, 50ft, 60ft, 70ft, 80ft	1	
トラフガーダ	その他			13	7
	達第970号	大正6年10月1日	4ft, 6ft, 8ft, 10ft, 12ft, 15ft, 18ft, 20ft	2	
	達第827号(甲)	昭和6年10月24日	1.3m, 1.6m, 1.9m, 2.2m, 2.9m, 3.55m, 4.15m, 5.05m, 6.0m, 6.7m	1	
	同(乙)	昭和6年10月24日	1.3m, 1.6m, 1.9m, 2.2m, 2.9m, 3.55m, 4.15m, 5.05m, 6.0m, 6.7m	3	
ビーム	その他			1	23
	作30年式	明治30年8月25日(明治28年設計)	3ft, 4ft, 5ft, 6ft, 7ft, 8ft, 9ft, 10ft, 11ft, 12ft	2	
	達第875号	明治42年10月20日	3ft, 4ft, 5ft, 6ft, 8ft, 9ft, 10ft, 12ft, 15ft, 18ft	10	
その他				11	

6 他の鉄道との比較

通達番号	橋桁形式	真岡鉄道	わたらせ渓谷鉄道	吾妻鉄道
達875号 (明治42年10月20日)	ビーム	西ノ川橋梁 紅取橋梁 他9橋	水沼R橋梁 不動沢橋梁 他1橋	
達680号 (明治42年8月3日)	上路プレートガーダ	七井川橋梁		坂川橋梁
達827号 (昭和6年10月24日)	トラフガーダ	下館橋梁 第二八原田橋梁	唐沢橋梁	

真岡鉄道	わたらせ渓谷鉄道
五行川橋梁 製作: Patent Shaft (イギリス) 設計者: C.A.W. Powell(チャールズ・アサセントンダブリュー・ポーンナル) 製作年: 明治27年頃 橋長: 42.71m 径間数: 1 × 12.60m 支間長: 1 × 29.98m 形式: ①単線路上路プレートガーダ ②単線ニーワーレントラス(ピン結合)	第二渡良瀬川橋梁 製作: DOLMANLONG(イギリス) 設計者: Theodore Cooper(セオドア・クーパー) 製作年: 明治44年頃 橋長: 104.85m 径間数: 2 × 46.93m 支間長: 1 × 9.60m 形式: ①上路プレートガーダ ②下路平行弦フットトラフ橋(ピン結合)

五行川橋梁 小貝川橋梁 現役最古のトラス(ポニーワーレントラス)橋

7 鉄道施設を活用する提案

交流拠点の創出と交流人口の増加を目的とした提案

- 駅に立ち寄りやすい環境を創出する
 - ・朝市
 - ・フリーマーケット
- 交流空間を作ることにより、地域住民の利用促進を図る
 - ・絵画展示
 - ・イベント情報掲載
- 交流人口の増加を目指す
 - ・橋梁等の歴史的な施設の解説
 - ・沿線地域の街並み散策をする企画を提案

【鉄道空間】
・絵画展示
・イベント情報など

【真岡駅舎】
・地域交流
・コミュニティ空間の拠点

【歴史的建造物】
・歴史的評価の解説版設置
・写真を活用した鉄道施設の解説など

8 まとめ

本研究では、真岡鉄道を基軸とした地域づくりについて検討した。その結果、歴史的建造物として評価が高いと考えられる鉄道橋梁が多数現存していることが確認された。

また、地域づくりについての提案も検討した。今後はこの歴史的建造物を地域交流による交流人口の増加に結びつけるための仕組みづくりの具体化が必要となる。